

- 問1 奈良時代、聖武天皇の時代を中心に栄えた天平文化の特徴を説明した文として、最も適切なものはどれですか。 (2026年 沖縄公立入試 類似)
- 遣唐使によってもたらされた唐の文化の影響を強く受け、国際色豊かな特色を持っている。
 - 武士の気風を反映した力強い文化で、運慶らによる写実的な彫刻が制作された。
 - 国風文化が発達し、仮名文字を用いた文学や、日本的な風景を描く大和絵が生まれた。
 - 幕府の保護を受けた禅宗の影響により、簡素で気品のある東山文化が栄えた。
- 問2 奈良時代末期に大伴家持らによって編纂されたとされる、日本に現存する最古の歌集として適切なものを次のうちから選びなさい。 (2022年 大阪公立入試 類似)
- 万葉集
 - 古今和歌集
 - 新古今和歌集
 - 日本書紀
- 問3 奈良時代の国際的な文化を象徴する事例として、東大寺の正倉院には当時の貴重な宝物が数多く保管されています。これらの宝物の特徴について説明した文として、最も適切なものはどれですか。 (2021年 福島県公立入試 類似)
- 遣唐使を介して、ペルシャ(イラン)など西アジアの影響を受けた工芸品や楽器が含まれている
 - 宋との貿易を通じて輸入された、青磁や白磁などの磁器が大部分を占めている
 - 縄文時代からの伝統的な土器が、仏教文化と融合して独自の変化を遂げたものが中心である
 - キリスト教の伝来に伴い、ヨーロッパの宣教師が持ち込んだ聖書や地図が数多く残されている
- 問4 平城宮跡から出土した木簡(文字の書かれた木札)に、現在の和歌山県にあたる地域から「調」として「塩」が送られたことを示す記録があります。このように、当時の税が都へ運ばれた状況について説明した文として、正しいものはどれですか。 (2022年 長野県公立入試 類似)
- 律令国家の仕組みにより、地方の特産物が納税者によって都まで運搬された
 - 遣唐使が唐から持ち帰った塩などの生活必需品を、都から地方へ供給した
 - 日明貿易の輸入品である塩が、堺や博多の商人を通じて都へ持ち込まれた
 - 琉球王国の使節が、外交の儀礼として各地の特産物を都の貴族へ贈呈した
- 問5 奈良時代に編纂が命じられた『風土記』の目的や内容について、当時の国家の背景と関連させた説明として最も適切なものはどれか、次の中から選びなさい。 (2026年 栃木公立入試 類似)
- 律令国家としての地方支配を強めるため、各地の資源や土地の状況、文化的な背景を中央政府が把握すること。
 - 仏教による国家の安定を図るため、各地に建立する国分寺のふさわしい場所を調査し、聖武天皇に報告すること。
 - 天皇の権威を海外に示すため、日本の成り立ちや神話を体系的にまとめ、遣唐使を通じて唐に伝えること。
 - 班田収授法を円滑に実施するため、各地の戸籍や計帳を作成し、それをもとに口分田を割り当てること。
- 問6 『万葉集』には、家族を残して九州北部の防衛に向かう悲しみを綴った「防人(さきもり)」の歌が数多く収録されています。当時、このように人々が防人として九州へ派遣されることになった歴史的な背景として、最も適切なものはどれですか。 (2015年 岐阜公立入試 類似)
- 白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に敗れた後、日本への侵攻に備えて九州の警備を強化する必要があったため。
 - 平将門の乱や藤原純友の乱が発生し、西日本一帯の治安が急激に悪化したため。
 - 元寇(モンゴルの襲来)が発生し、沿岸部での石築地(元寇防壁)の構築に大量の労働力が必要となったため。
 - 東北地方の蝦夷(えみし)を服従させるため、西日本の農民を兵士として東北へ送る中継基地が九州に置かれたため。
- 問7 8世紀初頭の710年に、唐の都である長安をモデルとして奈良の地に遷された都を何といいますか。712年に『古事記』が編纂された際の政治の中心地としても知られています。 (2018年 鳥取公立入試 類似)
- 平城京
 - 藤原京
 - 長岡京
 - 平安京
- 問8 708年、唐の貨幣である開元通宝にならって日本で鑄造され、新たな都の造営などに際して広く流通させようとした、わが国で最初に発行された貨幣の名称を答えなさい。 (2019年 大阪公立入試 類似)
- 和同開珎
 - 富本銭
 - 寛永通宝
 - 天保通宝
- 問9 律令国家の税制において、国家が「口分田」を農民に貸し出す代わりに、「租」を徴収する仕組みを維持するために最も重要視された基盤はどれですか。 (2025年 岐阜公立入試 類似)
- 戸籍を作成し、一人ひとりの年齢や性別を把握すること
 - 関所を設置し、各地の特産物が都へ運ばれるのを管理すること
 - 貨幣経済を浸透させ、稲ではなく銭で納税させること
 - 大規模な寺院を建立し、僧侶に土地の管理を委託すること
- 問10 723年に制定された「三世一身の法」において、新しく土地を開墾した人々に認められた権利と、その後に生じた課題の説明として最も適切なものはどれですか。 (2025年 埼玉公立入試 類似)
- 開墾した土地の私有を三代(または本人一代)という一定の期間に限り認めたとしたが、期限が来ると国に返還しなければならず、開墾意欲が低下する原因となった。
 - 開墾した土地を期限なく永久に私有することを認めたが、有力な貴族や寺院が広大な土地を独占したため、農民の生活が苦しくなった。
 - 開墾した土地の収穫物をすべて自分のものにするのを認めたが、土地そのものの所有権は認められなかったため、管理が不十分になった。
 - 開墾した土地の私有を認める代わりに、その土地で収穫された稲のすべてを税として納めさせたため、開墾を途中で放棄する者が相次いだ。
- 問11 律令制のもとで整備された税制において、各地の特産物である布や塩などを、納税者が自ら都まで運んで納める義務があった税を何と呼びますか。 (2023年 岩手県公立入試 類似)
- 租
 - 庸
 - 調
 - 雑徭
- 問12 奈良時代、聖武天皇の時代を中心に栄えた文化について、仏教の影響を強く受け、唐の文化やシルクロードを経由した西アジアなどの影響も取り入れた、国際色豊かな文化の名称として正しいものを選びなさい。 (2024年 埼玉公立入試 類似)
- 飛鳥文化
 - 天平文化
 - 国風文化
 - 弘仁・貞観文化
- 問13 奈良時代に現在の宮城県に設置された多賀城が担っていた役割について、当時の社会情勢を踏まえた説明として最も適切なものはどれですか。 (2021年 群馬県公立入試 類似)
- 東北地方における行政管理に加え、北方への備えや支配拡大のための軍事拠点としての役割
 - 遣唐使を派遣するための港の管理や、大陸からの使節を接待する外交窓口としての役割
 - 聖武天皇の命により、全国の国ごとに設置された仏教による国内安定の拠点としての役割
 - 幕府が直接支配する領地として、金銀などの鉱山資源を管理・輸送する経済的な役割

答え合わせ・解説

問1	答え 1 遣唐使によってもたらされた唐の文化の影響を強く受け、国際色豊かな特色を持っている。	天平文化は、当時の中国である唐との活発な交流により、その先進的な文化や制度を積極的に取り入れました。唐にはさらに西方の文化も流入していたため、日本の天平文化も西アジアやインドなどの影響を含んだ国際色豊かなものとなりました。
問2	答え 1 万葉集	奈良時代の天平文化を代表する作品であり、全20巻から構成されています。大伴家持が最終的な編纂に関わったと考えられており、約4500首もの歌が収められています。平安時代に編纂された古今和歌集などと混同しないよう注意が必要です。
問3	答え 1 遣唐使を介して、ペルシャ（イラン）など西アジアの影響を受けた工芸品や楽器が含まれている	当時の日本は遣唐使を派遣し、唐だけでなくシルクロードを經由して伝わった西アジアや中央アジアの文化も取り入れました。正倉院に収められた「螺鈿紫檀五絃琵琶」やガラス製品などは、当時の日本が大陸との交流を通じて国際色豊かな文化（天平文化）を築いていたことを示しています。
問4	答え 1 律令国家の仕組みにより、地方の特産物が納税者によって都まで運搬された	出土した木簡にある「調」とは、律令国家が地方の特産物の納入を命じた税の仕組みを指します。木簡には「紀伊国（和歌山県）」から「塩」が運ばれたことが記されており、当時の道路網を利用して、地方の産物が遠方の都まで組織的に運ばれていた実態を示しています。これは当時の人々に課された重い負担の一つでもありました。
問5	答え 1 律令国家としての地方支配を強めるため、各地の資源や土地の状況、文化的な背景を中央政府が把握すること。	奈良時代は「律令国家」としての体制を整備していた時期であり、中央政府は全国の土地や人々を直接支配しようとしていました。そのため、各地方の地理的条件や特産品（税として納められるもの）、さらにはその土地に古くから伝わる歴史や文化を把握することは、行政を円滑に進め、国家の支配を隅々まで及ぼすために非常に重要でした。
問6	答え 1 白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に敗れた後、日本への侵攻に備えて九州の警備を強化する必要があったため。	7世紀後半、日本は「白村江の戦い」で唐・新羅の連合軍に敗北しました。これにより、大陸側からの報復や侵攻を恐れた朝廷は、九州北部に大宰府を置き、山城（水城など）を築くとともに、東国などの農民を「防人」として徴用し、九州沿岸の警備にあたらせました。万葉集に収められた「防人の歌」には、重い負担や家族と離れる悲しみが切実に詠まれており、当時の対外緊張と民衆の苦難を裏付ける資料となっています。
問7	答え 1 平城京	元明天皇によって、それまでの藤原京から現在の奈良市付近へと遷都された都です。碁盤の目のように区画された「条坊制」が採用され、律令国家の体制を整える象徴となりました。この都が置かれた約70年間を一般に奈良時代と呼び、同時期には『古事記』や『日本書紀』などの歴史書、歌集である『万葉集』などがまとめられました。
問8	答え 1 和同開珎	奈良時代の直前である708年に、武蔵国から銅が献上されたことをきっかけに鑄造されました。唐の貨幣制度を取り入れることで律令国家としての体制を整える狙いがあり、当時建設が進められていた平城京周辺で主に流通しました。
問9	答え 1 戸籍を作成し、一人ひとりの年齢や性別を把握すること	「租」を確実に徴収するためには、誰にどれだけの面積の口分田を与えるべきかを正確に判断する必要があります。そのため、政府は「戸籍」を作成して民衆の性別や年齢を把握し、それに基づき「班田収授の法」を運用しました。この人身把握の仕組みが律令国家の財政を支える根幹となっていました。
問10	答え 1 開墾した土地の私有を三代（または本人一代）という一定の期間に限り認めたが、期限が来ると国に返還しなければならず、開墾意欲が低下する原因となった。	三世一身の法は、人口増加による口分田の不足を解消するために、開墾を奨励する目的で制定されました。しかし、この法律による私有の制限は「一定の期間」のみであり、期限が近づくと土地が荒廃したり、開墾の手が止まったりするなどの問題が発生しました。この反省から、後に永年私有を認める墾田永年私財法が制定されることとなります。
問11	答え 3 調	律令制度における中心的な税の一つです。米を納める「租」は地方の倉庫に保管されましたが、「調」は絹や布、塩、魚介類といった各地の特産物を都まで運ぶ必要がありました。この際、都までの食料や運搬の費用は納税者が負担したため、庶民にとって非常に重い負担となりました。
問12	答え 2 天平文化	聖武天皇は仏教の力で国家の安定を図る「鎮護国家」の思想を推進しました。遣唐使によってもたらされた唐の進んだ文化や、さらに西方の国際的な要素が融合し、平城京を中心に華やかな文化が展開されました。これが天平文化です。
問13	答え 1 東北地方における行政管理に加え、北方への備えや支配拡大のための軍事拠点としての役割	多賀城は、朝廷の支配がまだ十分ではなかった東北地方において、租税の徴収や戸籍の作成といった「行政」を行う場所であると同時に、対立していた蝦夷（えみし）からの攻撃を防ぎ、さらに北へと勢力を広げるための「軍事」の最前線でした。このように、辺境の地には中央政府の力を示すための強力な権限を持った役所が配置されました。